科目ナンバリング	U-LAS70 10001 SJ50						
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー ：イタリア文学入門 ILAS Seminar :Introduction to Italian Literature			担当者所属 職名・氏名	文学研究科　准教授　村瀬　有司		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・ 開講期	2025・前期	受講定員 (1回生定員)	6 (6) 人	配当学年	主として１回生	対象学生	全学向
曜時限	火5	教室	文学部校舎六階 村瀬研究室 (本部構内)			使用言語	日本語
キーワード	ヨーロッパ文学関連 / ダンテ / 『神曲』 / イタリア文学 / 物語						

[授業の概要・目的]

西洋を代表する詩人ダンテ・アリギエーリ（1265-1321）の『神曲』を読みながら、西洋文化とイタリア文学にかんする基礎知識を習得します。

ダンテの『神曲』は後世のヨーロッパの文学・文化に大きな影響を及ぼした作品であり、今日でも世界中で読み継がれ、また盛んに研究が行われています。その魅力は、作品全体の構成から詩行の一言一句にいたるまで、多岐にわたります。詩人その人が地獄・煉獄・天国を巡るという壮大な設定が読者の興味をかきたてると同時に、実際にその場を見てきたかのような細部のリアルな描写が読む者の心をとらえます。

授業では、この作品（日本語訳）の「地獄篇」を中心に、重要なトピックを紹介しながら作品を読んでいきます。

毎回簡単なテーマを提示して、出席者に調査・発表をしてもらう予定です。この作業を通して西洋文化とイタリア文学についての基礎的な素養を身につけることが授業の目的となります。なお、この授業に参加するにあたってイタリア語の知識は必要ありません（興味のある方は、ぜひ初修外国語のイタリア語初級を受講ください）。

[到達目標]

・西洋文化の基礎知識を身につける。
・ダンテ『神曲』について理解を深める。
・課題の調査と発表を通して、資料の収集、提示の仕方を体得する。
・アカデミックなレポートの形式（註・参考文献、引用の仕方など）になれる。
・イタリア語とイタリア詩について基礎的な知識を得る。

[授業計画と内容]

第1回　イントロダクション（授業の進め方などを説明）

第2回～14回　以下のテーマについて調査・発表・検討・説明を行う。
・西洋文化の二つの源泉（ギリシア・ローマ神話と『聖書』）
・西洋における詩・文学の目的
・ダンテの伝記情報と同時代のフィレンツェの状況
・『神曲』の構成について
・『神曲』のイタリア語原文と詩形について
・詩形は何の役に立つ？
・アレゴリーについて
・登場人物について
・ダンテの技法①比喩について
・ダンテの技法②登場人物の対話について

ILASセミナー ：イタリア文学入門(2)へ続く↓↓↓

ILASセミナー　：イタリア文学入門(2)

・ダンテの技法③語り口について
・『神曲』のリアリズム
・『神曲』（La divina commedia)というタイトルについて

第15回　フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点とレポートで評価する。内訳は授業への積極的な参加（30点）、課題の発表（40点）、レポート（30点）

[教科書]

授業中に指示する
『神曲』「地獄篇」の翻訳を各自で用意しましょう。和訳は数種類刊行されていますが、とりあえずは自分の気に入ったものでかまいません。適宜、プリント資料を配布します。

[授業外学修（予習・復習）等]

・授業で取り上げるトピックについて、発表予定者はもちろんそれ以外の参加者も積極的に下調べをしましょう。

[その他（オフィスアワー等）]

[主要授業科目（学部・学科名）]